

(最近、そうではないかと思ったこと その3)



近頃、昔のことを書く機会が増えて来たのですが、そのせいで、あることに気づきました。それは、いつの間にか忘れてしまっていることが実に多いということです。しかも、社会に出る前の頃のこと。その中でもとりわけ小中高時代のこと。さらにはその前のことを。忘れていたというより、その後起こったことに覆い隠されてしまっていたために見えなくなっていた、と言った方が正解かもしれません。

僕の場合ですと、非常に象徴的に言えば、うつ病を罹患し、それを克服したことで、その前に在ったものが、見えなくなってしまったと。

今の自分を形作っている元になった出来事というのは、普通なら自分の人生の中で起きた大きな事件やイベントの影響だと直感的に考えるのですが、幼い頃からせいぜい高校時代までを振り返ってみると、それほど大きな事件もイベントもないにもかかわらず、歳を取って振り返ってみる機会を得ると、殆ど事件とかイベントと言えないようなことが、実は人生のより深層部で、その後の自分を形成するのに大きく深く影響を与えていたのではないかと思えるようになったのです。

それは、大学時代以降、社会人になってから自分の歴史の中で起きた大きな事件やイベントが、ドッカン、ガラガラ、がったんごとんと大きな音を立てて、転がって来、自分の身体を突き抜けるほどの衝撃をアタマとところと身体に与えるのとは違って、それこそ、抜き足差し足忍び足で、音も立てずに忍び寄り、気づかないいつの間にかに、アタマとところと身体に何の抵抗もなくしみこんでしまう出来事ともいえない程の些事が、実はとんでもない影響、特に悪さをしていることに何となく気づき始めたのです。しかも、その些事は、微量を毎日摂取する食物や飲料にしみこませ続けることで、証拠を残さず死に至らしめる、例えば糖尿病患者への「砂糖混入殺人」みたいに、いつしか自分の精神的命を奪ってしまうようなものなのではないかと。

僕の場合で言えば、自由研究の楽しみを失う羽目になって、その後学校の規定学科だけを毎日しなくてはならなくなったとか、友達に何一つ言わないまま転校した、本人のせいではないにせよ、言いようのない「後ろめたさ」だとか言うことです。

何かそういうところに光を当てて、今までの自分の人生を振り返ってみると、ひょっとした

ら全く違う姿が浮かび上がってくるのではないかなと思った次第です。